だっこするよ

2023年　3月

社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園

園長　奥戸　昌子

私達は、育児同期　そして、子どもは丸ごと社会で育てていきましょう

３月を迎え、玄関のチューリップの芽が少し伸びてきました。卒園式を 11 日に控えている年長組、実物大の自画像の仕上げに取り組んでいます。丁寧に描く自分の顔、目も口も鼻も…生き生きとしていてそっくりです。卒園式の練習も始まり、園を旅立つ日ももうすぐです。

先日、年長組では、カレーパーティーがありました。保護者ボランティアに多数ご参加いただき本当に有難うございました。６グループに分かれて、メニューを決め、材料を決めて、買い出しへ。予算は、１グループ 2,000 円、電卓を持ち、真剣に品物選びをしていました。当日は、調理も火起こしも自分たちで行いました。煮込み中は、グラウンドで大人対子どもの氷鬼やドッジボール白熱しました。最後にママやパパで腕を組んで長い橋を作り、子ども全員を乗せて担ぐわらべうた（こいのたきのぼり）をしました。子どもたちは全員のママやパパに抱っこされたみたいで嬉しかったよと話してくれました。そして、カレー完成！６種類のカレー、みんなでお腹いっぱいいただきました。最後の鍋洗い、冷たい水で手を赤くして洗う姿も感動でした。最後までやり遂げました。翌日の振り返りの話し合いでは、体験を通して感じた言葉がどんどん溢れました。「買い出しでお金を払うときに緊張した。」「材料が硬くて切るのが難しかった。」「お代わりを沢山したよ。」など。また、「火がブル～ルル～と音がしていた。」「火がこっちに来たり、あっちに行ったり回っていたよ」薪が燃える音、炎が揺らぐ様子を話してくれる子もいました。この体験は、これからの自分が進んでいく未来世界への大きな自信となったと思います。もう地球の何処に住んでも生きていける子どもたちです。

その後、座談会へ…入学後の生活についてお話していただきました。先輩ママの「小学校入学は、親も不安だが、実は子どもの方がもっと不安で頑張っている。家庭では、安心できるようにしてあげて欲しい」「親も相談できる仲間を作っていくことが大切」との温かいアドバイス。そして、あるパパから「この園で育ち合ったこと、親も子どもの年齢で親になる。育児同期という言葉があり、小学校が分かれてもつながっていきましょう」ととても嬉しい言葉でした。子どもたちは、成長と共に親と離れて過ごす時間が長くなります。日々、複雑になっていく心や体の成長は、親だけでは受け止めきれないこともあります。そんな時に親以外に自分を気にかけてくれる存在、また親自身にも相談できる異年齢の友人がいることは安心です。育児同期…卒園を迎えるときにそんな保護者同士の関係が深まっていることにとても素敵だなと感動しました。

少し意味は違うかもしれませんが、人間は、共同して子どもを育ててきた歴史があります。私は、アフリカの諺「一人の子どもを育てるには、村が丸ごと必要である。」この言葉を思い出しました。この諺は、赤ちゃんは、コミュニティに産まれる。村で、その子を知らない人がいない中で育つことはとっても幸福なことだ。その子に自意識が芽生えたときには「自分は愛されている。いい子だ」と自己肯定感にあふれている。人間は、人間の中で人間へと育っていく。コミュニティ全体で育てようという意味だそうです。親以外の眼差しが、水や食べ物のように子どもの育ちに必要なんですね。「育児同期」という言葉にもつながります。

今年度もコロナ渦での保育ではありましたが、大型プールの利用や焼き芋パーティー、様々な行事も行うことができ、保育運営へのご理解、ご協力に心から感謝申し上げます。来年度の事業計画書には、異年齢保育の充実、貸出絵本の充実、給食試食会の開催と地域交流の充実、保育の質の向上を目指して子どもたちの最善の環境を整えていきたいと思います。「みんなちがってみんないい！人間の凸凹こそ豊かさだ」と自分らしさを大切に、多様性が生まれる異年齢保育をスタートします。どうぞ２０２３年度も宜しくお願いいたします。